

令和 6 年 7 月 19 日（金）に、台湾国立嘉義高級中学から 12 名の生徒と 2 名の引率教諭が来校しました。本校 SSH 事業では「トランス・サイエンス社会」で自己実現できる「科学技術イノベーション・リーダー」の育成を目指して研究を行っており、その一環として国際性、英語運用能力を伸ばし、科学技術への理解を深めることを目的とした国際交流に取り組んできました。台湾との交流は新型コロナウイルス感染症の蔓延により一度中断されましたが、令和 4 年度より台湾国立嘉義高級中学との交流を皮切りに再び台湾と日本の交流の絆を復活させることができました。



歓迎式

嘉義高級中学の生徒たちは、地下鉄連坊駅で下車し本校に到着しました。本校生徒 12 名は台湾の生徒一人一人の名前の入ったネームカードを掲げ、台湾からのお客様をお迎えしました。

9 時 10 分から始められた歓迎式では本校の樽野幸義校長が歓迎の挨拶を行うと、嘉義高級中学 黄俊源先生は英語で、そして王嘉暄先生は日本語にてご挨拶してくださいました。黄俊源先生は日本を好きになった理由をご自身のエピソードを交えユーモラスに語ってくれました。また王先生は来日できた喜びを笑顔で話して下さいました。お二人とも母国語以外の言語を流暢に使いこなしており、それを聞いた本校の生徒たちはこの日の交流会の意義を改めて意識した様子でした。



プレゼント交換をする樽野校長と黄俊源先生



嘉義高中代表 王冠珽さん



歓迎の挨拶をする熊谷いろはさん

体験授業

歓迎式後、嘉木高級の生徒は本校 2 学年で行われている授業を体験しました。お世話役のバディ生徒の案内によりそれぞれの教室に分かれ、数学や情報、社会の授業などを体験しました。来校した生徒たちは日本語の学習を十分に積み、日常的なやり取りが十分に可能であるため、しっかりと授業内容も理解できた様子でした。体験授業中に笑い声が教室から溢れ出るほどの盛り上がりを見せたクラスもあったほどでした。

一高科学の甲子園

体験授業後は、物理実験室において「一高科学の甲子園」を行いました。「A4用紙1枚を使用し、できるだけ遅く落下する物体を製作する」ことが実験活動の内容です。① A4用紙のみで製作しそれ以外は使用しない、② 接着剤は使用しない、③ A4用紙すべてを使用する必要はない、④ 高さ1.6mから班の代表1名が自由落下させる、⑤ 地面に落下するまでの時間を教員2名がストップウォッチで計測し時間が長い方を記録として採用する、というルールを定めました。合計2回の落下速度計測を行い上位3チームが表彰を受けました。英語による協議を中心に、各チームは工夫を凝らし熱心に落下物の作成に取り組みました。優勝したチームは5cm×5cmの小さな紙片を作り、桜の花びらが回転しながら落下する現象を再現し、2秒を超えるタイムを計測することができました。



異文化交流会



英語による一高紹介

昼食を挟み午後は異文化交流会を行いました。ここでは仙台一高等学校紹介、紹介動画視聴、クイズ日本、一高クイズ、ワードウルフ、嘉義高校紹介、台湾クイズ大会、台湾お祭り体験、オタ芸披露が行われました。台湾クイズでは、七夕にまつわる台湾独特の風習や食事に

関する文化を学ぶことができました。



台湾伝統のコマ回し



自己紹介

また、台湾お祭り体験では台湾で人気のあるバンブーダンスや、台湾伝統のコマ回し、そして“メンコ”を使用した遊びを体験しました。バンブーダンスは音楽に合わせてステップを踏むダンスで「touch、back、touch、back、touch、touch、back♪」の軽快なリズムに合わせ、参加者はうれしそうにダンスに興じていまし



台湾クイズ

た。また台湾クイズでは、スマホを活用しその場で回答者のデータを集計しながらゲームが進行されました。参加者全員の回答がスクリーンに表示され、生徒は台湾と日本の文化の違いを可視化されたデータによって、深く理解することができました。

【編集後記】

台湾の方々は驚くほどの量のプレゼントを贈って下さいました。そこで台湾の贈り物文化について調べたところ、台湾では靴を送ることは「自分から遠ざかってほしい」という意味になるため、好ましくはないということでした。またハンカチやタオルも「涙を拭く」という悲しみを連想させるため好ましくはないとのことでした。短い時間ではありましたが、今回の国際交流からは多くのことを学ぶことができました。3月に予定されている台湾研修に向けて、しっかりと台湾の知識を身につけたいと改めて思いました。